

香川県におけるニカメイガ類似種とその飛来消長

伊藤博

1. 香川県におけるニカメイガ類似種の飛来状況と決定圃における調査の実態について調べた。
2. ニカメイガモドキは調査の範囲では飛来を確認することができなかった。もし飛来があったとしても飛来数は極めて少なく、本県の大多数の地点における予察灯によるニカメイガの発生消長調査には、ニカメイガモドキの誤認による混乱はないと考えられる。
3. ニカメイガ類似種は年間 2 回の発生と推定され、それらの第 2 回成虫飛来最盛期にあたる 9 月前半の誘殺数は、概してツトガ>クロフタオビツトガ>ヨシツトガであったが、調査地点による差異が大きく、その原因はそれぞれの種の食草の分布状態の影響が大きいと推察された。
4. 香川農試予察灯におけるニカメイガ、ツトガ、クロフタオビツトガの飛来消長の記録では、ともに年 2 回の発生であり、第 1,2 回成虫の飛来最盛期、誘殺数、誘殺数の比率には、ツトガとクロフタオビツトガの間に関連性がみられたが、これら 2 種とニカメイガのそれにはほとんど相関が認められなかった。
5. 決定圃委託調査者の調査結果には、ニカメイガとその類似種ともに誤認例が多かったが、類似種のニカメイガへの誤認よみこみ数は少なかった。また誤認例はクロフタオビツトに多く、ヨシツトガがこれに付いた。
6. 調査対象とした時期、類似種の誘殺数および誤認された種などからみて、一部の地点を除いて過去の予察灯調査記録に、類似種の誤認混同による大きな混乱はないと考えられるが、決定圃調査者などに対する早急な研修が必要である。この場合、普遍的な飛来があり誘殺数も多く、誤認例も多かったクロフタオビツトガと、一部の地点における多数飛来と形態的にニカメイガと類似性の強いヨシツトガが主要な対象種になると考えられる。